

第70回 文化講座

発掘調査速報 2017 〔その2〕

【日 時】 平成 29 年 8 月 12 日 (土) 13:30 ~ 16:00

【会 場】 沖縄県立埋蔵文化財センター 研修室

沖縄県立埋蔵文化財センター

第 70 回文化講座 「発掘調査速報 2017」

平成 29 年 8 月 12 日㊁ 13:30 ~ 16:00

開催あいさつ

沖縄県立埋蔵文化財センター 所長 金城 龜信

「藪地洞穴遺跡」

横尾 昌樹（うるま市教育委員会文化課）…2

「ツヅピスキアブ」 久貝 弥嗣（宮古島市教育委員会生涯学習振興課）…7

***** 休憩 *****

「白保竿根田原洞穴遺跡」 仲座 久宜（沖縄県立埋蔵文化財センター）…10

***** 質疑応答 *****

発掘調査 実施箇所

宮古諸島



ツッピスキアブ（宮古島市）
旧石器時代（後期更新世）～近世

沖縄本島



黒地洞穴遺跡（うるま市）
縄文時代～弥生から平安並行期

八重山諸島



白保平根田原洞穴遺跡（石垣市）
旧石器時代（後期更新世）～中石器（クスク時代）



蔽地洞穴遺跡 発掘調査

うるま市教育委員会文化課

主任主事 横尾 昌樹

目的：試掘調査

所在地：うるま市与那城屋慶名東蔽地

時代：縄文時代～弥生から平安並行期

調査面積：計 23.5m² (TP1 = 4 m²、TP 2 = 4 m²、TP 3 = 7.5 m²、TP 4 = 4 m²、TP 5 = 4 m²)

調査期間：平成 26 (2014) 年 11 月～平成 27 (2015) 年 1 月、平成 27 (2015) 年 6 月～8 月、

平成 28 (2016) 年 6 月～9 月

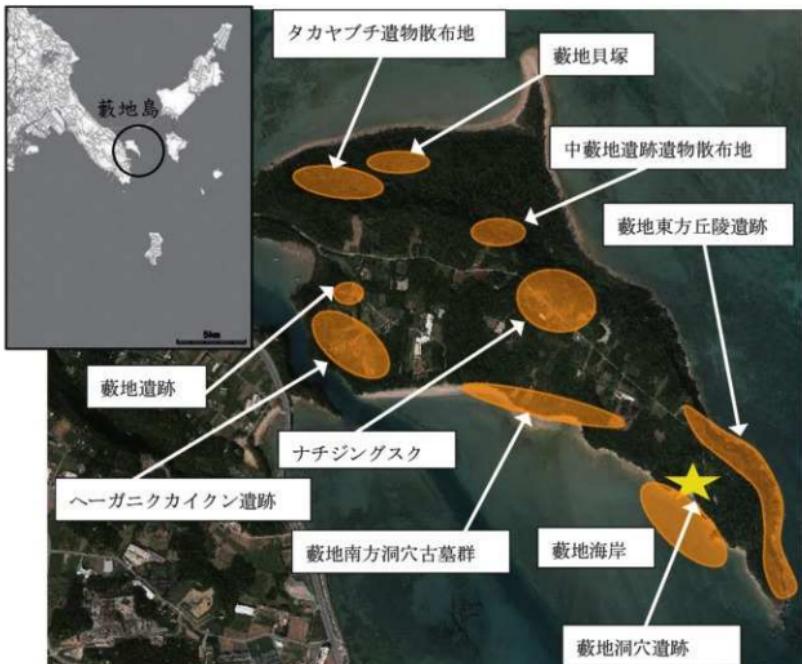
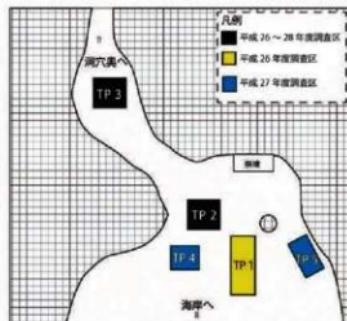


図1 蔽地島の遺跡

- ・蔽地遺跡－沖縄貝塚後期の遺跡。土器片、貝殻片が確認されている。
- ・ナチジングスク－クーグスク時代の遺跡。遺物は確認されていない。
- ・蔽地貝塚－貝塚時代後期の遺跡。土器片や貝殻片が確認されている。
- ・ヘーガニクカイケン遺跡－貝塚時代後期の遺跡。土器片や貝殻片が確認されている。
- ・蔽地海岸－縄文時代前期頃。曾畠式、条痕文土器が採取されている。

蔽地島の歴史

島内には、これまでの踏査により9遺跡が確認され、1箇所で先史時代の遺物が採取されています（図1）。最も古い遺跡は縄文時代に相当する蔽地島洞穴遺跡であり、その後は貝塚時代後期の遺跡が多数所在します。続くグスク時代の遺跡はナチジングスクがありますが、詳細は不明です。伝承では昔、屋慶名の人々は蔽地島に住んでいたと伝えられていますが（与那城村教育委員会 1989）、集落の痕跡は現在のところ確認されていません。今後の調査で発見される可能性は大きいです。



発掘調査

現在、蔽地島周辺の島嶼地域にはマリンレジャーや観光で訪れる人が多く、観光開発が進行しています。これら島嶼地域では、本島東海岸地域の観光開発計画があり、蔽地島も含まれており、周辺地域と合わせて今後進展していくことが予想されます。この開発計画の事前調査のため、平成26年度から平成28年度にかけて蔽地洞穴遺跡の試掘調査を実施しました。

遺跡概略

勝連半島の北側に位置する蔽地島にある洞穴遺跡です。1960年に國分直一氏、嵩元政秀氏らにより初めて発掘調査が行われ、その時、約6,000年～6,500年前の爪形文土器^{つめがたもんどき}が発見されたほか、貝殻を加工して作った鐵^{やじり}などが発見され、沖縄の先史時代を研究する上で重要な発見となりました。



今回の調査の概要

今回は、洞穴内部と洞穴入口付近、洞穴の前の広場、計5か所に調査区を設け発掘を行いました。調査区からは、爪形文土器が大量に出土し、その他、石斧、貝鏃等が出土しました。洞穴の入口付近では、爪形文土器期の炉跡と思われる遺構も発見されました。また、洞穴奥部の調査区では約9,000年以前と思われる土器と、古代人の食料の痕跡と思われる貝殻、イノシシの骨等も同じ層より出土しており、沖縄における先史時代の生活の様子がわかる資料が出土しました。

各調査区の成果について（発掘調査区はTP○と省略しています）

TP 1 - 平成26年度に幅1m、長さ3mの調査区を発掘しました。その結果、上層部は貝塚時代後期（約2,000年前～1,000年前）の地層が確認でき、同時期の貝輪や土器も出土しました。それよりも下層では縄文時代晚期頃（約2,500年前）の地層を確認し、同時期の土器が出土しました。洞穴の入口付近では、さらに古い時代の縄文時代前期～早期末頃（約6,500～6,000年前）の爪形文土器と炉跡を発見しました。



TP 1で見つかった炉跡

TP 2 - 平成26年度から28年度にかけて幅2m、長さ2mの調査区を発掘しました。その結果、縄文時代晚期頃（約2,500年前）の地層を確認し、同時期の土器や貝殻が出土しました。さらに下層では、縄文時代前期～早期末頃（約6,000～6,500年前）の爪形文土器が大量に出土し、同時に局部磨製石斧が出土しました。そのほか、貝殻を加工して作った貝鏃や貝製のビーズも出土しました。人工遺物以外にもイノシシの骨や貝殻が出土しています。また、爪形文土器の層を掘り下げるとき、爪形文土器とは異なる厚みのある土器が出土しました。この土器については、現在どのような土器か調べているところです。



TP 2で見つかった爪形文土器①



TP 2で見つかった爪形文土器等②



爪形文土器とその下層の土器

TP 3 – 平成 27 年度から洞穴の奥に幅 1 m、長さ 3 m の調査区を発掘しました。硬い石灰岩の層を削岩機を用いて割り、掘り進めたところ、貝殻（ハイガイ）とともに文様の確認できる土器が出土しました。土器は、県内での出土例が少ない「押引文土器」と考えられ、出土した層位の年代を測定したところ今から約 8,500 年前という測定結果（暦年較正年代）が得られました。さらに深く掘り進めると、約 40 cm 堀り下げた地層から土器と大量のマガキ、ハイガイ、シレナシジミの貝殻、イノシシの骨が出土しました。その地層の年代を測定したところ、約 9,000 年以上前（暦年較正年代）という結果がでました。



TP 3で見つかった土器や貝殻等



波状文土器の出土状況



TP 3 で見つかった波状文土器

TP 4 – 平成 27 年度に、洞穴の前庭部に幅約 2 m、長さ約 2 m の調査区を発掘しました。その結果、縄文時代晚期頃（約 2,500 年前）の地層を確認し、同時期の土器や貝殻が出土しました。



TP 4 の調査壁面

TP 5 – 平成 27 年度に、洞穴入口の横（祭壇を正面にして右側の壁際）を幅約 1.5 m、長さ約 2 m の調査区を発掘しました。貝塚時代後期（約 2,000 年前～1,000 年前）の地層が確認でき、同時期の土器や人骨の一部も出土しました。



TP 5 の調査壁面

ツヅピスキアブ

宮古島市教育委員会生涯学習振興課

主任主事 久貝 弥嗣

目的：確認調査 所在地：宮古島市平良字下里原 1068 番地

時代：旧石器時代（後期更新世）～近世 調査面積：18m²

調査期間：平成 21（2009）年～平成 26（2014）年

ツヅピスキアブの発掘調査では、約 10,000～20,000 年前の層（IV-1・2 層）と、約 24,000 年前の層（IV-3 層）で人の生活の痕跡が確認されました。約 10,000～20,000 年前の層からは、イノシシの骨が多く出土し、シカ、ネズミ、コウモリなどの動物骨とともにチャート製の石器や人骨も出土しています。また、約 24,000 年前の層からも人が使用したと考えられる炭化物がまとまって検出される面があり、これらの時代に宮古島には人が存在していたことが明らかになってきました。



発掘作業風景



発掘作業風景



土層堆積（●の地層は約 10,000～20,000 年前、◆の地層は約 24,000 年前）



約 24,000 年前の炭化物の検出状況
棒の立っている場所が炭化物の出土位置。

IV-1・2層（10,000～20,000年前）の発掘状況



石器出土状況



石器2出土状況



遺物出土状況

遺物の出土した場所に竹串をさしています。



イノシシの切歯

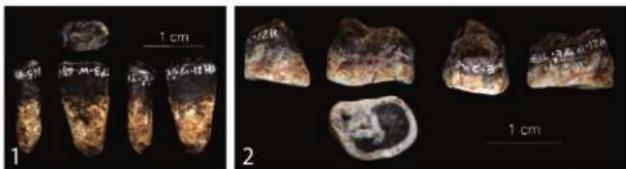


チャートの円礫



動物骨出土状況

出土した動物骨は、歯が多く、骨の出土は少量でした。



▲人骨

2点の人骨。

1は前歯に近い部分の歯
(上顎小白歯)で、2は奥歯
(上顎大臼歯)になります。



▲石器

1～3は、チャートとよばれる岩石で、人為的に打ち割った加工がみてとれます。4は、砂岩と呼ばれる岩石で、磨り石として使用されています。



チャートの円礫▶

人的な加工は見られないものの、チャートの円礫が多く出土しています。



▲シカ骨

シカ骨の出土量は少ないが、大型でミヤコノロジカと考えられます。



▲イノシシ骨

イノシシ骨の出土の大部分は歯で、骨の出土は非常に限られていきました。



▲小型動物（コウモリ）の骨

1～3:オオコウモリ属、4～5:キクガシラコウモリ属、6～11:カグラコウモリ属

しらほさおねたばるどうけつ
白保竿根田原洞穴遺跡

沖縄県立埋蔵文化財センター
調査班長 仲座 久宜

目的：重要遺跡範囲確認調査 在所地：石垣市字白保（新石垣空港敷地内）

時代：旧石器時代（後期更新世）～中森期（グスク時代相当）

調査面積：約 2m²

調査期間：平成 28（2016）年 6月 27 日～7月 8 日

1.はじめに

白保竿根田原洞穴遺跡は、新石垣空港建設に伴い発見された遺跡です。平成 22（2010）年度の記録保存調査に続き、平成 24（2012）年度から平成 28（2016）年度まで、保存目的の確認調査を行いました。これらの成果は、平成 29（2017）年 3 月に調査報告書として公表されています。

そして 5 月 19 日には、出土人骨に関する記者発表を行い、翌日から県内外の新聞やテレビなどで大々的に報道されました。また、これに関連して開催した人骨の一般公開では、開催期間 9 日間で 3,200 人を超える入場者を数え、ひとつの企画展としては当センターが開所した平成 12（2000）年以来、最多の入場者数を打ち出しました。

今回の講座では、昨年度の調査概要に加え、これまでの分析・研究によりわかつてきたことを一部紹介します。

2.昨年度の調査について

平成 28（2016）年度は、平成 26（2014）年度から調査を継続している H4 区 III E 層において、人骨の回収作業と遺跡の 3 次元計測を行いました。その結果、岩陰内から 62 点の人骨片を回収することができました。これらの人骨は、現地で出土状況と位置情報を記録し、クリーニング後は部位同定を行い、これまで出土していた人骨と接合を行いました。その後、各種分析を行いその成果をまとめ、調査報告書として「事実報告編」、「総括報告編」の 2 分冊で刊行しました。

この調査と並行して、石器石材調査として西表島と小浜島をめぐり、八重山諸島には石器として利用できる石材が多く分布することがわかりました。

また、普及活動として 7 月 2 日には現地説明会を開催し、続いて 12 月には石垣市立八重山博物館において移動展を開催し、多くの皆様に来場いただきました。

3.これまでの成果

白保竿根田原洞穴遺跡では、調査に際し調査指導委員会を設置し、調査・分析法、遺跡の評価や報告書の構成に至るまで検討しながら進めてきました。これまでの調査・分析により、現時点で判明している主な成果は以下のとおりです。

- ① 約2万年間にわたり断続的に利用された複合遺跡：八重山最古の下田原期を遡る時期に人類が到達
- ② 中森期（グスク時代相当）の炉跡発見：洞穴内はヒトの行動が可能な明るさがあった可能性
- ③ 堆積の構造・過程を解明：人骨をはじめとする遺物は洞穴外からの流れ込みではなかった
- ④ 下田原期の墓の発見：副葬品を伴い集骨された状態、八重山諸島初の発見
- ⑤ 完新世初期（約9,000年前）の層から土器片出土：下田原期を遡る土器文化が存在した可能性
- ⑥ 旧石器時代の層から石器などの道具類の出土なし：豊富な石材があるのになぜ？
- ⑦ 人骨片の総点数は1,100点を超える：個体数（人数）は20人を超える
- ⑧ 人骨は岩陰や洞壁の平坦部5ヶ所に集中分布：墓として利用した可能性
- ⑨ このうち1体分は人体の位置関係を保つ：岩陰に葬った可能性、旧石器時代の墓、国内初の事例
- ⑩ 残りが良好な人骨4体：白保1号～4号と命名、今後顔や身体の復元が期待される
- ⑪ 骨中コラーゲンからDNA分析：南方起源の集団か、日本人のルーツ解明に期待・・・・

4.まとめと今後の予定

日本全国には、約1万ヶ所の旧石器時代の遺跡が存在しますが、その当時生きた人々そのものといえる化石人骨の発見は沖縄に集中しています。その中でも白保竿根田原洞穴遺跡の調査成果は、旧石器時代の葬法を考える上で貴重です。

また、今後の人骨の研究により、当時の人たちの顔つきや身体を復元できるほか、港川人や周辺諸国の化石人骨と比較研究を行うことにより、その起源や系統について知ることができます。

このような人骨の成果以外にも、これまで最古とされてきた下田原期以前の土器文化の存在や、洞穴が2万年以上もの長期間使い続けられたことなど、重要な発見があります。

その一方で、旧石器時代の層から石器などの道具類が発見されていないこと（使える石材はあるのに）、住居や食料などの生活の痕跡が確認されていないことなどの課題も存在します。

白保竿根田原洞穴遺跡が旧石器時代の墓であるとすれば、この周辺に彼らが生活していた空間が存在しているはずです。今後、ほかの洞穴遺跡で同様な調査を行うことにより、その様相が明らかになる可能性があります。

白保竿根田原洞穴遺跡の調査は、これでひとまず終了しますが、出土遺物や洞穴、環境に関する分析・研究は引き続き行われます。あらたな成果が出ましたら、その都度公表していく予定ですのでご期待ください。

memo

移動展のお知らせ

沖縄県立埋蔵文化財センター

下田原 貝塚 出土品展



9.1 金 - 9.10 日

石垣市立八重山博物館

共催：石垣市教育委員会



9.15 金 - 9.17 日

竹富町立波照間島公民館

共催：竹富町教育委員会



両館ともに

9:00 ~ 17:00

*入館は 16 時半まで

入館無料

関連文化講座

<予約不要・参加無料> 先着 200 名

『下田原貝塚の調査について』

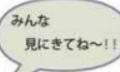
講師：金城 龍信

(沖縄県立埋蔵文化財センター所長)

会場：波照間農村集落センター

日時：平成 29 年 9 月 16 日 (土)

19:00 ~



主催 沖縄県立埋蔵文化財センター TEL : 098-835-8751

次の企画展

巡回速報展

in 恩納村博物館

2018年 1/16 (火) ~ 2/4 (日)

in 宮古島市総合博物館

2018年 2/16 (金) ~ 2/25 (日)

沖縄の先史時代展（仮題）

2017年 10/24 (火) ~ 11/26 (日)

首里城京の内跡出土品展

2018年 2/20 (火) ~ 5/13 (日)

沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 TEL: 098-835-8751

開所時間：午前 9 時～午後 5 時（入所は午後 4 時 30 分まで）

休 所 日：月曜日、国民の祝日（子どもの日、文化の日は開所）、年末年始、※月曜が祝日の際は、翌火曜も休所